



たゆみなく・すこやかに・たくましく

学校だより 2月号



青森県立黒石養護学校 令和8年2月27日発行 教頭 本田 知也

卒業生を送る会

3月13日（金）の卒業式が、いよいよ間近に迫ってきました。校内では、各学部や学級でこの1年間の学習や活動を振り返りながら、卒業や進級に向けた準備や取組が少しずつ進められています。

2月24日（火）には、小学部で「卒業生を送る会」が開かれました。今年度の小学部の卒業生は3名です。卒業生の入場から会が始まり、思い出DVDの上映、在校生からの温かいメッセージやプレゼントの贈呈、さらに歌やダンス、みんなで楽しめるゲームなど、多彩なプログラムが卒業生を中心に和やかに進められました。思い出DVDの上映では、卒業生3名が1年生だった頃から6年生までの成長の様子が、写真のスライドショーとして映し出されました。「かわいい〜」「なつかしい〜」といった声があちこちから聞こえ、6年間の歩みをゆっくりと振り返る、温かい時間となりました。

退場の際には、在校生が心を込めて準備したくす玉が見事に割れ、会場から大きな拍手がわき起こりました。みんなで楽しいひとときを過ごし、卒業生にとっても在校生にとっても、心に残る良い思い出になりました。

なお、26日（木）には中学部の卒業生を送る会、27日（金）には高等部の卒業生激励会を行いました。それぞれの学部で、これまでの成長を温かく祝い、新しい一歩を応援する行事となりました。



除雪作業を行いました

高等部の作業学習では、地域の方々の役に立つ経験を通して、働くことの意義を学ぶことを目的に、温湯地区の除雪作業を計4回行いました。今年も大雪に見舞われ、小道に入ると一面が雪、雪、雪……。生徒たちは毎回汗だくになりながら、時間いっぱい集中して作業に取り組む姿が見られました。

「社会や誰かの役に立ちたい」という思いを実際の行動につなげられたことは、生徒にとって非常に貴重な経験です。ボランティア活動は“誰かのため”と考えて取り組むものですが、その過程で自分自身の成長や新たな学びを得られる活動でもあります。

今後も、「社会や誰かの役に立ちたい」という思いを大切にしながら、自分にできることを実践し続けてほしいと思います。

